

みどりをさがしにでかけよう

No.

5

2018 / 07

ちが咲き

自然環境評価調査発表会

開催



平成 30 年 4 月 15 日、茅ヶ崎市役所分庁舎にて、約 70 人の市民調査員と有識者の協力を得て平成 27 年度からおこなわれていた茅ヶ崎市自然環境評価調査の調査結果の発表会が開催されました。この発表会に、本誌の編集に協力しております慶應義塾大学の学生 5 名が参加してきました。ちが咲き第 5 号では、この様子を参加した学生目線でお届けいたします。

茅ヶ崎市 都市部景観みどり課・環境部環境政策課・建設部公園緑地課

作成協力：慶應義塾大学 一ノ瀬研究会 - Greeture Project -

評価調査発表会レポート



市内で特に重要度の高い自然環境を有する地域などとして抽出された7地区（^{やなぎやと}柳谷、^{なめがや}行谷、^{しみずやと}清水谷、^{ながやと}長谷、^{あかばねじゅうさんず}赤羽根十三図、^{へいだゆうしんでん}平太夫新田、^{やなぎしま}柳島）と、比較的良好な自然環境が残されている2地区（^{じょうのこし}城之腰、^{しおみだい}汐見台）の計9地区にて6分類（植物、ほ乳類、鳥類、両生・は虫類、魚類、昆虫類）それぞれの調査を担当された市民調査員の方から発表がありました。お話を通して、改めて茅ヶ崎市にはまだまだ多くの自然があることがわかりました。また、市民がその生態系を守っていく意識、そのための仕組みづくりも重要であると感じました。若い世代がどう関わっていくのかを検討する必要性もあるのではないのでしょうか。

第一部：調査リーダーによる調査結果発表



〈昆虫類リーダー〉
岸さん

動物は必ず行って見れるものではないので、”時の運”って感じなんですね。単純に増えた、減ったを比較するのではなく、環境変化の影響によるものかどうかを見極めることが重要です。

〈担当分類
お名前〉
印象に残った一言



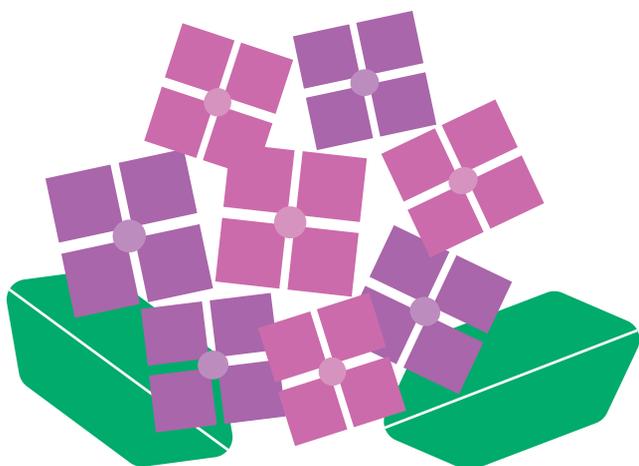
〈哺乳類リーダー〉
青木さん

今絶滅危惧種となっている生きものたちが今後生きていくためには、私たちの世代の努力が不可欠です。その生きものたちがもし絶滅したとしたら、私たちの世代の責任です。



〈両生・は虫類リーダー〉
小島さん

両生・は虫類は水辺、草地、樹林それぞれがある程度連続的に繋がっていないと繁殖、生息ができません。





魚類リーダー
森上さん

小出川の水環境が外来種の繁殖で変わってしまうのではないかとこの心配があります。



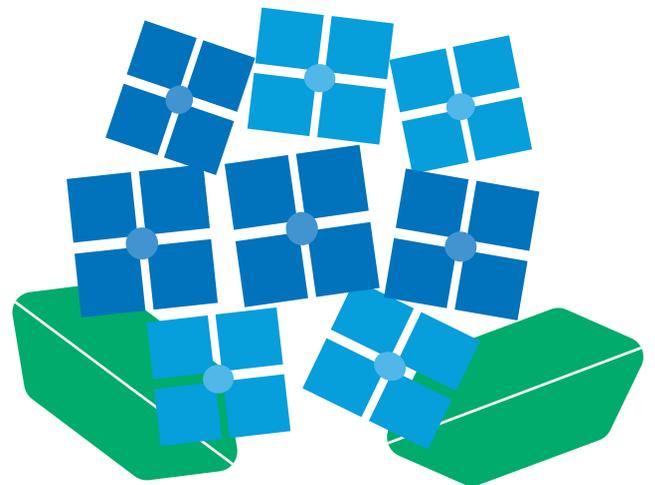
鳥類リーダー
白田さん

それぞれの草地、樹林地、水辺の環境はある程度面積があると種類数が多いということを感じました。



植物リーダー
岸さん

今後調査を続けるためには全地区を把握できる方の養成が不可欠です。また、植物調査に関しては昔からやっている方がほとんどで高齢化しているため、若い方をスカウトしないと5年後は危ないのではないかと考えております。



第二部：特別講師による講演



横浜国立大学大学院
環境情報研究院
小池文人教授



慶應義塾大学
環境情報学部
一ノ瀬友博教授

茅ヶ崎市環境審議会会長兼茅ヶ崎市自然環境評価調査ファシリテーターの小池文人教授と茅ヶ崎市みどり審議会会長一ノ瀬友博教授のお二方より、それぞれ「評価調査からわかったこと」、「自然環境調査とみどりの基本計画・生物多様性地域戦略の関係」についてご講演いただきました。お二方の話より、茅ヶ崎市のように、住民の方々の能力や技術、アイデアに目を向けた、より市民の力を活用したまちづくりが必要だと感じました。

外来種とその問題

マスコミやインターネットなどでしばしば取り上げられるので、外来種の問題点についてご存知の方は多いと思います。

しかし、外来種の定義を正確に理解している人は意外に少ないようです。外来種とは、「今まで生育生息していなかった地域に、人為的手段により移動し、そこに定着して自然繁殖するようになった種」を指します。



中央公園管理棟上草地に群生している
オオキンケイギク

外国から入ってきた種類はもちろん、国内の他地域から入ってきたものも外来種となります。外来種は「人為的手段」により移動されたものなので、自力や風など自然の力で他地域から侵入したものは外来種と呼びません。近年増えている南方系種の多くが該当します。他地域から入ってきたとしても、その地で自然繁殖できなければ外来種にはなりません。

市内でも数多くの外来種が確認されており、その種数は増加傾向にあります。外来種の増加で、在来種の生育生息を脅かす事態も起きています。中でも、特定外来生物に指定されているアレチウリ、オオキンケイギク、クリハラリス(タイワンリス)、アライグマを始め、繁殖力の強い生物については、生物多様性を保全するためにその根絶に向けた粘り強い取り組みが必要です。

自然環境評価調査について詳しく知りたい方は
[こちら](#)

茅ヶ崎市 HP

第3回自然環境評価調査

検索

または

